

奨励賞



設計担当者

小松大祐

(株)風景研究所、神奈川県建築士会



共同設計者

大島 碧

(株)風景研究所、神奈川県建築士会

一戸建て住宅／神奈川県鎌倉市

多重の家

構造 | 木造

階数 | 地上2階

敷地面積 | 275.34㎡

建築面積 | 123.51㎡

延べ面積 | 166.69㎡

竣工年 | 令和5年



1



2



3



4

- 1 リビングの吹抜けにはダイニング・キッズスペース・図書室が面している
- 2 2階ギャラリー。私道の突き当りにあり、隣家の裏庭に面している
- 3 中庭に面した開放的な居室たち
- 4 吹抜けを取り巻くソファ・リビングベンチ・図書室と、隣家の裏庭の借景
- 5 私道から見た建物外観



5



1階平面図



2階平面図

選評

北鎌倉の閑静な住宅街、細い私道の行き止まりにこの住宅はある。敷地がもともと持っている「まちの中庭」のような場所性を生かした、設計者とその友人の2家族のための住宅である。

書類審査の時点では、「多重の」意味がいまひとつよくわからなかったが、行ってみてそのタイトルの意図を実感できた。2つの敷地の間に中庭をつくり、その周りを3棟の建物がゆるく囲む。棟の隙間の道や小庭は、さまざまなプロ

ポーションと素材の組み合わせで公と私の段階的な空間を生み出しながら、周辺の私道や隣接する既存の緑と中庭をつないでいる。

この流れはそのまま住宅内にも引き込まれていく。1階は浴室が通り抜けられる動線の一部となっており、結果的に明暗の変化に富む回遊空間が実現している。この1階の回遊動線が吹抜けまわりの階段、さらには2階の複数の床レベルへと連続することで、住宅内のあちこ

ちに視覚的変化が生まれ、同時に住む人は住まいの隅々まで能動的に動きまわる楽しさを堪能することができる。

周辺を隙間から引き込み、それを回遊動線として住宅内にのぼらせるという、視覚と身体の多重性がここにある。親密な都市空間の風景が散りばめられた住まいである。（冨永祥子）